

# D60

この度のHPの改訂に際し、九州内のC55、D50、D60をC55、D60として新たに編集、公開することに致しました。

私がSLの撮影を始めた1969年（昭和44）頃、筑豊本線では直方区のD60がD50140号機と共通運用で貨物列車、久大本線では大分区のD60が客車列車、貨物列車の牽引に充っていた。

筑豊本線の撮影をしたときは、下関の火の山YHに泊まった。門司～下関の料金を払えば、九州均一周遊券を使えた。一日筑豊本線で撮影し、門司港駅に戻り、2330発の1121レに乗り、翌日は肥薩線の大畑（803着）で撮影し、吉松2149発の1122レで門司港（745着）に戻った。これを繰り返せば、一日おきに筑豊本線と肥薩線の撮影ができた。まっ、4日位が限度でしたが。

## 直方の町

炭鉱の街の直方の定食屋は、安くて、量があった。炭鉱夫は腹一杯食べたがるのだそう。経費節約のため、パンのミミばかりかじっていた私にとってはとてもありがたかった。以来、筑豊本線に行くと、昼は直方の定食屋。



D6062 直方機関区にて 1969年（昭和44年）12月撮影

このD60は原形に近く比較的状态が良い。直方区のD60は比較的状态が良く、大分区のD60には門デフにパイプ煙突のD60が多かった。



冷水峠にて 1969年（昭和44年）12月撮影



冷水峠にて ドラフト音が凄かった 1969年（昭和44年）12月撮影



由布院付近 1969年（昭和44年）12月撮影

今でこそ由布院は観光スポットとなったが、当時は何もなかったところだった。久大本線の撮影をして日田 YH に泊まった。雨に濡れて撮影をしたため、翌日は熱を出し、一日 YH で寝ていた。その日の夕食は、宿泊客は私だけだったからだろうか、「ちり鍋」だった。あとで聞いたら、「フグ」だったとのことだった。生まれた始めて「フグ」を食べたのは YH だった。

日田で父に「鮎うるか」買って帰った。

#### 参考文献

- 1) 白井茂信, 国鉄蒸気機関車小史, 鉄道図書刊行会, 1961
- 2) 荒井文治, 白井茂信, 杉田肇, 機関車ハンドブック, 誠文堂新光社, 1963
- 3) 久保田博, 懐想の蒸気機関車, 交文社, 1970
- 4) 久保田博, 追憶の蒸気機関車, グランプリ出版, 2002
- 5) いのうえこーいち, 国鉄蒸気機関車 156 機関区全図鑑, 世界文化社, 2016

最後までお読み頂き、ありがとうございました。ご感想、ご意見は [jfurukawa@apost.plala.or.jp](mailto:jfurukawa@apost.plala.or.jp) までお寄せください。